

授業概要

経済経営学部でこれから4年間専門分野の勉強するために役立つ経済・経営・会計分野の興味ある事柄について、書籍、新聞、雑誌等から素材を求め、皆で理解を深めるための勉強を進める。

国民経済における民間経済主体は、株式会社制度を利用しているのでその会社制度についても勉強をしたい。ゼミ生との相談により、学習の内容に変更がでることもある。

授業計画

第 1 回	大学で学ぶことの意味を考える。経済系学科の学問とは何か。
第 2 回	自己の将来の方向性を考えるために大学でいかに学ぶか。
第 3 回	日米貿易摩擦の問題と日本経済への影響
第 4 回	先進諸国はなぜ超低金利、マイナス金利なのか、金利とは何かを考える
第 5 回	現代経済を支える主たる企業形態—株式会社制度とは
第 6 回	株式会社の経済的特質—会社はなぜ株式発行をするのか—
第 7 回	株式は金融商品（株価で売買）の典型である。人はなぜ株式を売買するか
第 8 回	上場株式会社は簿記・会計制度をなぜ必要としているか。簿記とは、会計とは？
第 9 回	簿記会計制度の目的Ⅰ—貸借対照表とは、上場会社を分析してみよう
第 10 回	簿記会計制度の目的Ⅱ—損益計算書とは、上場会社を分析してみよう
第 11 回	簿記会計制度の目的Ⅲ—キャッシュフロー計算書とは、上場会社を分析してみよう
第 12 回	自己に興味ある上場会社の株価を調べてみよう。その株価は高いか低い
第 13 回	株式を専門に取引し、株価を形成する証券市場の重要性を勉強しよう
第 14 回	証券市場における株価の形成の仕組み、証券市場の目的とは
第 15 回	半期学んで、何を得たかを報告・議論する
第 16 回	総合的な質問時間、論文・レポートの作成方法を学ぶ

到達目標

現代の経済・経営・会計分野に興味をもってこれらの分野の勉強に自学自習する能力の育成を目指す。

履修上の注意

前もって資料を渡すので、よく読んでくること。毎回遅刻せずに出席するのは当然のことである

予習・復習

前もって資料を渡すので、よく読んでくること。3 回ごとに勉強した内容を、自己の意見を入れレポートにまとめ出してください。

評価方法

課題提出 30 点、報告内容 20 点、最終課題レポート 50 点

テキスト

授業開始前に、資料を配布する。
必要に応じて、適宜推薦図書を紹介する。

授業概要

いわゆるアベノミクスのもとで、円安が進み、株価も上昇してきました。景気も上向き、物価も上昇してきています。長かった超円高・デフレ不況もようやく終わることが期待されています。

本演習、戦後の日本経済と金融、資産バブル、平成大不況、政府の経済政策、日本銀行の金融政策について、くわしく指導します。

授業計画

第 1 回	講義の概要
第 2 回	景気がよくなっているのか
第 3 回	GDP とはなにか
第 4 回	戦後二番目の好景気というが
第 5 回	どうして賃金が上がらない
第 6 回	どうして物価が上がらない
第 7 回	1 千兆円の政府の借金がある
第 8 回	返せないとハイパー・インフレか
第 9 回	企業は 400 兆円も儲けてる？
第 10 回	福祉予算はますます膨れ上がる
第 11 回	日本銀行のマイナス金利とは
第 12 回	預金すると利子を取られる？
第 13 回	銀行経営は悪化の一方
第 14 回	オリンピック恐慌は来るか
第 15 回	日本経済のゆくえは
第 16 回	試験

到達目標

デフレが長期化した要因を理解したうえで、日本銀行の異次元緩和によって、本当にデフレを克服できるのかを明らかにします。

アベノミクスというものの概要を理解してもらうことを到達目標としています。

履修上の注意

演習をおこなっている間に、いよいよ、アベノミクスが成功するか否かが、見えてくるはずです。

ですから、新聞をよく読むことや日々のニュースに関心を持ってください。

予習・復習

演習では、資料や新聞記事などを読みます。

事前にわたす資料などを演習前によく読み、演習終了後には、復習してください。

評価方法

レポート（70%）、演習での発言（30%）などで評価します。

テキスト

テキストは使わず、適宜、資料を配ります。

授業概要

演習の課題は、大学で学ぶ目標をしっかりと持つこと、学ぶ楽しさを知ること、及び、読むこと、調べること、書くこと、報告することなど今後の就学に必要なスキルを修得することにある。大学で学ぶには、自分で自分の課題を見つけ、考え、解決に向けて進む意欲を持つことが大事になる。この演習に参加することで、学ぶことの意味をそれぞれに考え有意義な大学生活が過ごせるようになってほしい。

授業計画

第 1 回	大学生活に慣れる①（自己紹介の文章作成報告、履修計画の作成）
第 2 回	大学生活に慣れる②（大学での授業のあり方や規則、大学のホームページの利用）
第 3 回	授業の受け方を体得する①（ノートのとり方、テキストの読み方）
第 4 回	授業の受け方を体得する②（レポートの作成法）
第 5 回	大学で学ぶ意味を考える（大学での目標、学力調査）
第 6 回	企業について知り、意見をまとめる①（企業経営やプロジェクト運営、意見の報告）
第 7 回	企業について知り、意見をまとめる②（企業経営やプロジェクト運営、意見の報告）
第 8 回	時事問題を読み、自分の意見を文章にまとめる①（主要な時事問題、論者の意見をまとめる）
第 9 回	時事問題を読み、自分の意見を文章にまとめる②（新聞の社説等を使って、自分の意見をまとめる）
第 10 回	わからない事項を調べる（図書館ツアーの実施、ネット検索などの方法）
第 11 回	意見を発表し、討論する①（関心のあるテーマを調べ、レジュメにして作成し、報告する）
第 12 回	意見を発表し、討論する②（関心のあるテーマを調べ、レジュメにして作成し、報告する）
第 13 回	自分の将来について考える①（自分の適性を知り、将来の進路について考える）
第 14 回	自分の将来について考える②（自分の適性を知り、将来の進路について考える）
第 15 回	自分の将来について考える③（自分の適性を知り、将来の進路について考える）
第 16 回	総括

到達目標

- 自分の課題について調べ、意見をまとめ、表現することができる。
- 政治や経済の時事問題が企業人・社会人にとって不可欠の問題であることを知る。
- 大学での学び方を体得する。

履修上の注意

1年次の学生は全員履修である。この演習の目的は、大学で学ぶための目標をしっかりと持つことにある。このため、よく調べて自分の意見をまとめ、授業時間内には仲間同士で積極的に議論してほしい。なお、学外活動を行う場合がある。

予習・復習

予習・復習は積極的に行い、授業中に指示された課題は必ず提出すること。

評価方法

授業への取り組み、課題の提出状況、レポートまたは試験により総合的に評価する。

テキスト

- 開講時に指示する。
- 必要に応じて、資料を配布する。

授業概要

IT化がより進み、AIロボットも身近な存在となっている今、『人間理解』が益々重要となってきた。私達人間とはどのような生き物なのか、人間が他の動物と違っている点は何なのか、人間でなければ出来ないことは何のかなど、人間を理解し、今後どのような社会が求められていくかについて、演習を通して理解を深められるよう指導する。

授業計画

第 1 回	宇宙とは？/地球とは？
第 2 回	人間とは？/植物と動物の違いは？
第 3 回	物質とは？/無機物と有機物の違いは？
第 4 回	環境とは？/気候、気温、風、水 等
第 5 回	愛とは？/家族とは？
第 6 回	人間関係とは？/共に生きるとは？
第 7 回	人間の心とからだ
第 8 回	人間の進化/脳の発達
第 9 回	脳と心の不思議な関係
第 10 回	考える脳
第 11 回	ポジティブ・シンキング/ネガティブ・シンキング
第 12 回	脳と腸の関係
第 13 回	AI (人工知能) とは/ディープ・ラーニング
第 14 回	脳科学の進歩
第 15 回	生とは？/死とは？
第 16 回	試験

到達目標

- 地球や自然と人間の関係を理解する。
- 人間の特性について理解する。
- 心とからだの関係について理解を深める。
- 脳の進歩や働きについて理解する。
- AIについて理解を深める。

履修上の注意

休まず積極的に参加すること。

予習復習

事前に教科書をよく読んで、予習しておくこと。

評価方法

発表点 (25 点)、レポート点 (25 点)、学期末試験 (50 点)

テキスト

- 教科書名：『ビジュアル版 脳と心のしくみ』
- 著者名：池谷 裕二
- 出版社名：新星出版社

授業概要

1年次の教養演習は、2、3、4年次と徐々に専門的な内容に進んでゆく最初の段階の演習である。「演習」とは、何かのテーマについて教員から講義を受けて理解して終わるものではなく、学生自らが何らかの目的やテーマに対して、何かの行動を起こして初めて成り立つものであると考えている。そこで、教養演習Ⅰでは最初に社会に出るために、就職するためにどのような人が求められているかを理解することにはじまり、そのための演習を行う。その際の題材は、経営に係わる資料を考えている。

大学4年間でどのように過ごし、どのような就職を目指すのかは、常に意識してもらうように情報提供し、演習してもらうつもりである。

授業計画

第1回	ガイダンス・キャリアとは？
第2回	働く意味を考える
第3回	社会人基礎力の理解する
第4回	社会人基礎力を身につけるための方法
第5回	資料（日本の人口・都市）を使用した演習
第6回	資料（日本の人口・世帯）
第7回	資料（日本の人口・寿命）
第8回	資料（日本の経済）
第9回	資料（日本の産業）
第10回	資料（日本の生活①）
第11回	資料（日本の生活②）
第12回	資料（二ホンノエネルギー）
第13回	調べてきた内容を報告する①
第14回	調べてきた内容を報告する②
第15回	まとめ
第16回	定期試験

※ 人数等により進度と内容は随時調整します。

到達目標

テキスト等の資料の内容を適切にまとめることができるようになる。

自分の意見を適切な文章で正しく伝えることができるようになる。

自分の意見を発言で他人に正しく伝えることができるようになる。

履修上の注意

テーマは上記のとおりだが、到達目標に示したように、講義ではなく演習なので、聞くだけの内容を考えていない。課題やグループワークも含めて受講者が積極的に発言等をしてもらう。

予習・復習

授業内容に応じた課題を予習し、他人の意見等を聞いてまとめる復習を予定している。

評価方法

平常点45%・定期試験55%程度で評価する。

なお、既定の出席回数に満たない場合には、原則として単位を認定しない

テキスト

未定。

参考文献は適宜紹介する。

授業概要

自分で問題を解決し、自分で調べ、考えるという勉強の仕方を学ぶ。

大学の授業の特徴は、答えを自分で探すことにあり、自分なりの答えをまとめることにある。こうした勉強の仕方は、社会人になった解き、自分で企画を立て自分で実践する際にも重要なことである。

授業計画

第 1 回	演習の運営について
第 2 回	経済の基本的な考え方
第 3 回	今日の経済問題
第 4 回	経済記事を読む
第 5 回	自分の問題関心について
第 6 回	資料の調べ方
第 7 回	自分のテーマにあった文献を探す
第 8 回	文献の紹介
第 9 回	文献を検討する
第 10 回	文献について整理して報告する
第 11 回	報告についての討議
第 12 回	足りない文献を探す
第 13 回	自分のテーマを明確にする
第 14 回	テーマについてまとめて報告する
第 15 回	検討会
第 16 回	課題レポートの提出

到達目標

問題関心を明確にして自分で調べ、考え、まとめる力を養う。

履修上の注意

問題関心を明確にすること。積極的に発言すること。

予習・復習

授業中に与えられた課題を行うこと。

評価方法

演習における報告と発言による。

テキスト

授業中に指示する。

授業概要

演習の課題は、大学で学ぶ目標をしっかりと持つこと、学ぶ楽しさを知ること、そして読むこと、調べること、書くこと、発表することなど、今後の学修に必要なスキルを身につけることにある。大学で学ぶには、自分で自分の課題を見つけ、考え、解決に向けて進む意欲を持つことが大事である。この演習に参加することで、学ぶことの意味をそれぞれ考え、有意義な大学生活が過ごせるようになってほしい。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション（授業内容、授業方法、評価方法などの説明）
第 2 回	大学生活に慣れる① 履修計画を立てる
第 3 回	大学生活に慣れる② 授業のあり方、学内の規則・設備を知る
第 4 回	授業の受け方を体得する① 講義ノートの取り方
第 5 回	授業の受け方を体得する② テキストの読み方
第 6 回	授業の受け方を体得する③ レポート作成法
第 7 回	自らの学力を調べ、大学で学ぶ意味を考える（学力調査）
第 8 回	図書館ツアーに参加し、文献の検索方法を覚える
第 9 回	読書発表会①
第 10 回	読書発表会②
第 11 回	グループ研究とディベート①
第 12 回	グループ研究とディベート②
第 13 回	グループ研究とディベート③
第 14 回	グループ研究とディベート④
第 15 回	春期の総括：初めての大学生活を振り返る
第 16 回	期末試験

到達目標

- 1、大学の施設・設備を有効に活用できるようにする。
- 2、自分の課題について調べ、意見をまとめ、表現することができる
- 3、大学での学び方を体得する。

履修上の注意

無断欠席・遅刻、授業中のスマホいじり、私語、居眠りなどの行為に厳しく対応する。

予習・復習

与えられた課題の発表についてしっかり準備することを求める。

評価方法

授業態度、積極性、発表内容、期末試験を総合して評価する。

テキスト

『大学生学びのハンドブック』（世界思想社）を使う。プリントを配布するので、購入は不要。

授業概要

本教養演習では、2年次以降から本格的に始まる経済学や経営学の勉強に備えて、「経済」とは何か、「経営」とは何か、について考える場を提供したい。そのために一番良い方法は、経済新聞を読むことであろう。経済新聞には、前日までに発生した経済の動きが迅速に報道されており、またそれまでに発生した経済上の事件に関して簡単な解説も掲載されている。

また、証券市場が開設された翌日には、その市場での取引の様子を株式欄を見ることで経済の状況を知ることできる。どうせ就職活動が始めるころには、経済新聞を読みこなしていなければならないので、1年次の段階でどのように経済新聞を読みこなすべきか、について知っておいたほうが良いように思う。

授業計画

第 1 回	はじめに（本演習の進め方）
第 2 回	経済新聞の歴史をたどる
第 3 回	経済新聞に掲載されている記事とは何か
第 4 回	自分の興味のある産業の記事を読んでみよう
第 5 回	実物取引（金や石油）の記事はどこにあるか
第 6 回	経済新聞における文化欄の役割
第 7 回	経済新聞に掲載される小説の特徴
第 8 回	株式欄の読み方（1）
第 9 回	株式欄の読み方（2）
第 10 回	株式欄の読み方（3）
第 11 回	株式会社とは
第 12 回	経済において株式市場が重要なわけ
第 13 回	どのような会社の株が良い株なのか（1）
第 14 回	どのような会社の株が良い株なのか（2）
第 15 回	株式市場の発展に果たした経済新聞の役割
第 16 回	試験

到達目標

本演習の目的は、経済新聞を読みこなすことによって、経済や会社がどのような原理や原則で動いているか、について知る能力を蓄えることである。知りたい情報が経済新聞のどの部分に書かれているのか、を理解できたら目標は達成されたといえる。

履修上の注意

経済新聞を自宅でとっている人は、その新聞を持ってきてもらいたい。自宅でとっていない人は、駅売りのその日の経済新聞を買って持ってきてもらいたい。

予習・復習

経済新聞をよく読むこと。できれば自宅でとってもらい、毎日目を通せば、十分な予習と復習になる。

評価方法

毎回の授業で受講者に多く質問をするので、それに的確に答えられるかどうか、で判断する。また、節目節目で小テストをすることも考えられる。

テキスト

その日の経済新聞を持ってきてもらいたい。どの経済新聞であるかは、問わない。ただし、私は一番よく読まれている経済新聞を持参するので、同じものであれば理解はしやすいものと思われる。

授業概要

演習の課題は、大学で学ぶ目標をしっかりと持つこと、学ぶ楽しさを知ること、及び、読むこと、調べること、書くこと、報告することなど今後の就学に必要なスキルを修得することにある。大学で学ぶには、自分で自分の課題を見つけ、考え、解決に向けて進む意欲を持つことが大事になる。この演習に参加することで、学ぶことの意味をそれぞれに考え、有意義な大学生活が過ごせるようになってほしい。

授業計画

第 1 回	自己紹介の文章を作成し、報告する。履修計画を立てる。
第 2 回	大学での授業のあり方や規則、学内の設備などを知る。大学のホームページを利用する
第 3 回	ノートのとり方を練習する
第 4 回	テキストの読み方を学ぶ
第 5 回	レポート作成法を学ぶ
第 6 回	大学に入って何を学びたいか考える。
第 7 回	自らの学力を調べる
第 8 回	時事問題を読み、その内容を理解し、自分の意見を文章にまとめる
第 9 回	新聞等の教材によって現在の主要な時事問題を知る。
第 10 回	社説等を使って論者の意見に賛成か反対かを明確にしながら、自分の意見をまとめる
第 11 回	図書館ツアーの実施、ネット検索などの方法を学ぶ
第 12 回	大学でこれから学びたいと思う課題について、自分の意見をまとめる
第 13 回	自分の適性を知り、将来の進路について考える。
第 14 回	資格について知る
第 15 回	自分が最も関心のあるテーマを調べ、それをレジュメにして作成し、報告する
第 16 回	期末テスト

到達目標

- ・大学の施設・設備を有効に活用できるようにする。
- ・自分の課題について調べ、意見をまとめ、表現することができる。
- ・政治や経済の時事問題が企業人・社会人にとって不可欠の問題であることを知る。
- ・大学での学びを体得する。

履修上の注意

1年次の学生は全員履修である。この演習の目的は、大学で学ぶための目標をしっかりと持つことにある。このため、よく調べて自分の意見をまとめ、授業時間内には仲間同士で積極的に議論してほしい。なお、学外活動を行う場合がある。

予習・復習

予習・復習は積極的に行い、授業中に指示された課題は必ず提出すること。

評価方法

授業への取り組み、課題の提出状況、レポートまたは試験により総合的に評価する。

テキスト

指定しない

授業概要

本演習では、「簿記」の学習を通じて資格試験などの**勉強方法のコツ**を指導します。在学中に公務員・教員や資格試験に合格したい学生は受講してください。大学で何か資格ぐらいいは取得しておきたいと思う学生は沢山います。では、どうすれば資格試験に合格できるのか。この「演習」ではその勉強方法を体得してもらいます。高校時代の勉強方法に疑問があった学生や勉強を苦手にしてきた方にお勧めの演習です。試験勉強の要点は、**1.合格の目標を明確にすること。2.目次を見て説明できること。3.過去問題集を制覇すること。**この3点にあります。本講では、将来、公務員や高校教員（商業）、公認会計士、税理士、国税専門官、そして大手金融機関等への就職希望者を対象に指導いたします。

授業計画

第 1 回	ガイダンス：15回の演習の概要について説明します。
第 2 回	資格試験勉強のコツについて / エクステンションセンターの上手な受講方法とは？
第 3 回	目標の明確化＝11月の日商簿記3級合格 / 学習カレンダーに勉強時間を「見える化」する
第 4 回	目次をみて自分で説明できること（自己講義の反復） / テキストと問題集の使い方の相違
第 5 回	簿記一連の流れを頭に叩き込み / 勉強時間は早朝にするのが一番である
第 6 回	貸借対照表と損益計算書の勘定科目を音読し、その構造を筆写しよう。
第 7 回	情報メディアセンターを使い倒せ・・・個別ブースを朝から占有し勉強の場所を確保しろ！
第 8 回	仕訳のコツ：借方と貸方を原因と結果で考える。簿記は仕訳で始まり仕訳で終わる
第 9 回	仕訳と転記の基本：仕訳を素早く転記する練習をする、反復学習にとにかく耐えろ
第 10 回	中間試験実施：成果を出す勉強方法のコツとは？
第 11 回	テキスト300頁を読み込むコツとは →目次把握 →速読3回 →論点学習 →辞書替り
第 12 回	問題集を完遂せよ・・・ やさしい問題から解答解説をそのままノートに写せ
第 13 回	就職は「キャリアデザインI・II」を受講せよ、就活のノウハウはここにあり・・・！
第 14 回	総合問題に挑戦（1）8ケタ精算表をゲーム感覚で解答しよう
第 15 回	総合問題に挑戦（2）合計残高試算表を得意分野にすれば合格は近いぞ
第 16 回	定期試験実施

到達目標

勉強方法のコツを体得すること。1日に3時間、1週間で15時間、1か月で60時間の勉強を習慣として身に着けること。**テキストの目次をみて自分で説明できるようになること。**精算表と合計残高試算表が作成できること。

履修上の注意

1. 春期「初級簿記」を履修登録してください。
2. エクステンションセンターの「日商簿記検定3級講座」を受講すること。
（「日商簿記検定3級試験」の全国平均合格率：2018年2月実施48.9%、6月実施44.3%、11月実施43.8%）
3. Campus ノート(コクヨ)と電卓 12桁を用意すること。(スマホは不可)

予習・復習

- ・簿記の教科書と問題集を毎日3時間勉強してください。合格者はみんなもっとやっている。
- ・インプット＝教科書の読解、アウトプット＝問題集の解答です。
- ・資格の試験勉強は、自分との戦いです。**あきらめないで続けることが大切です。**

評価方法

- ・授業への参加意欲と中間試験、定期試験で総合評価をします。
- ・授業態度不良者は「不可」とする。

テキスト

開講日に公表します。

授業概要

テーマ：スポーツとマーケティングの出会い

スポーツとマーケティングの最も基礎的な考え方を勉強し、その関係について考えます。スポーツといった、誰にでもわかっているはずの「常識的な言葉」の意味もおろそかにせず、ひとつひとつをきちんと自分たちで点検し、自分の頭で考えることの楽しさを身につけたいと思っています。

授業計画

第 1 回	演習の概要
第 2 回	スポーツって何だ (1)：eスポーツはスポーツか？
第 3 回	スポーツって何だ (2)：スポーツの分類 — どこまでをスポーツに含めるか？
第 4 回	スポーツって何だ (3)：スポーツにおける「近代」とは何か？
第 5 回	スポーツって何だ (4)：2020年東京オリンピックをめぐる
第 6 回	スポーツって何だ (5)：スポーツにおける営利と非営利
第 7 回	マーケティングって何だ (1)：メーカーと顧客の関係
第 8 回	マーケティングって何だ (2)：顧客のニーズ・欲求とは何か？
第 9 回	マーケティングって何だ (3)：顧客満足は万能か？
第 10 回	マーケティングって何だ (4)：メーカーとは誰のことか？
第 11 回	マーケティングって何だ (5)：経験価値って何だ？
第 12 回	スポーツマーケティングって何だ (1)：1984年ロサンゼルス・オリンピックの意義
第 13 回	スポーツマーケティングって何だ (2)：「観るスポーツ」と「するスポーツ」
第 14 回	スポーツマーケティングって何だ (3)：メガスポーツイベントのマーケティング
第 15 回	スポーツマーケティングって何だ (4)：スポーツチームのマーケティング

到達目標

スポーツ、マーケティング、スポーツマーケティングの最も基本的な概念を理解できることを到達目標としています。同時に、それぞれの概念について、自分自身で調べ、考える力を身につけることを目指したいと思っています。

履修上の注意

- ◎演習では、グーグルなどを使ってインターネットで調べてくるという課題を出します。スポーツイベントや組織はグローバル化していますので、日本語のウェブサイトだけでなく、英文のウェブサイトを調べることを嫌がらない態度が望ましいといえます。
- ◎メールにレポートを添付して提出していただきます。
- ◎昨今、スマホは使えるがメールは苦手という学生が少なくありませんが、各自、スマホだけでなく、パソコンのメールからファイルを添付してメールを送付できるように、入学時の講習をきちんと受けてください。
- ◎演習には必ず出席すること、また、30分以内の遅刻は認めますが、遅刻3回で欠席1回分にカウントされることに注意してください。

予習・復習

事前にわたす資料などを演習前によく読み、演習終了後には復習してください。また、予習・復習のためにネットなどで調べることは必須です。

評価方法

演習への出席を前提とし、演習への討論など参加態度 (25%)、演習で出された課題の遂行の状況 (25%)、最終期末レポート (50%) によって評価します。
演習では、積極的に疑問や意見を述べる学生、および英文資料をいやがらない学生は、高く評価されます。

テキスト

- テキストは使わず、適宜、資料を配り、またインターネットで調査したウェブサイトを利用します。
- 参考文献が必要な場合は、とりあえず、以下をご参照ください。
- ◎薄井和夫『現代のマーケティング戦略 — はじめて学ぶマーケティング基礎篇 — 』大月書店、2003年
- ◎中澤真・吉田政幸編『よくわかるスポーツマーケティング』ミネルヴァ書房、2017年

授業概要

『目的から考える大学での学び方』

本ゼミでは、学年の進行とともに経済経営学部で学ぶ主な対象である企業が、どのように「モノやサービスを売るための仕組み」をつくっているのか、を学ぶ。これは学生の皆さんが就職する様々な企業において非常に重要な考え方であるとともに、皆さんの人生を豊かにする学びでもある。具体的には、1年春期教養ゼミ：グループワークで考える大学での学び方、1年秋期教養ゼミ：与えられた内容の調査とプレゼンテーション、2年次基礎ゼミ：現代企業の課題と業界や企業研究の方法、3年次演習ゼミ：マーケティングの応用と卒業論文のテーマ決定、4年次卒業論文へと進めていく。このような流れの中で、座学だけでなく学外の実践の場から自分の感覚で企業やビジネスを感じ、学んでほしい。

自分で考え、それをまとめて整理し、文章や口頭でプレゼンテーションして第三者に伝えること。これを繰り返すことで、学んだ知識を実際の社会で応用する力に変えていってほしい。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション（授業の進め方）
第 2 回	自己紹介／履修登録について①
第 3 回	大学生活の目標を決める／履修登録について②
第 4 回	ゴールから考える－卒業と就職と【グループワークとプレゼンテーション】
第 5 回	まとめ（小活①）
第 6 回	自己分析をしてみる－自分を振り返る【グループワークとプレゼンテーション】
第 7 回	ノートの取り方／メールのマナー／調べる習慣をつける／情報メディアセンターを活用する
第 8 回	ニュースを見る－新聞、TV、インターネット【グループワークとプレゼンテーション】
第 9 回	時事用語で世の中の動きを調べる①【グループワークとプレゼンテーション】※ゲストを予定
第 10 回	まとめ（小活②）
第 11 回	時事用語で世の中の動きを調べる②（Web）【グループワークとプレゼンテーション】
第 12 回	時事用語で世の中の動きを調べる③（新聞）【グループワークとプレゼンテーション】
第 13 回	企業とは何か／社長とはどういう人か【グループワークとプレゼンテーション】
第 14 回	経営者の話を聴く※ゲストを予定
第 15 回	まとめ（総括）
第 16 回	課題レポートの提出

到達目標

大学ではどうやって勉強していけばよいのか。その基本的考え方を「何故大学に進学したのか」「どうすれば卒業できるのか」「就職するとはどういうことか」といったテーマを題材としたグループディスカッションを通じて学び、その上で、経済経営学部で学ぶ対象となる「企業」や「社長」について自分の言葉で話せるようになること。

履修上の注意

大学では「自分で考え、発言する」ということがとても大切である。大学を卒業したらこんなことをやりたい等、自分なりの夢を持っている学生を歓迎する。

講義中の私語、携帯電話や音楽機器等の使用、食事は禁止する。公共交通機関の遅れ以外の遅刻については原則認めない。守れない者には厳しく対処する。また無断欠席は認めない。

学外授業に参加してもらうことがある。

予習・復習

レジュメは各自インターネットからダウンロードして準備してもらう。利用方法は講義で説明する。

毎回の講義の中で事前に課題（レポート等）を指示する場合がある。

評価方法

授業態度（50%）、提出課題の内容等（50%）により、総合的に判断し評価する。

テキスト

テキストや参考文献は必要に応じて演習中に指示する。

授業概要

本演習は、経営学専攻の学生にとっての「入門の入門」と位置づけ、経営学の基礎を概括的に修得するよう指導する。演習はテキストを用いて進めるが、1 年次前期の学生が履修生となることを勘案し、テキストの読み進め方、レポートの要領、議論への参加方法、講義中のノートのとり方等、基本的事項にも力点を置いて指導する。

学んだ知識をもとに日本経済新聞や経営関連誌を自主的に読み進める習慣を身につけることは重要であり、履修生にはタイムリーな話題を提供して演習の活性化を行う。

授業計画

第 1 回	ガイダンス —大学での経営学の学習方法—
第 2 回	企業の理解
第 3 回	企業の内部構造
第 4 回	コーポレート・ガバナンス
第 5 回	環境変化と企業の対応
第 6 回	企業経営と経営理念
第 7 回	経営戦略とは何か
第 8 回	事業システムの理解
第 9 回	マーケティングの理解
第 10 回	企業組織をどうつくるか
第 11 回	組織の中で人を動かす
第 12 回	財務と会計の役割を理解する
第 13 回	企業評価
第 14 回	企業環境の変化と新しい経営学
第 15 回	演習のまとめ
第 16 回	期末試験

到達目標

本演習の到達目標は、履修生に経営学の概要を理解させるとともに、履修課程を通して大学での学びの姿勢や技術を修得させることである。社会人経験のない学生が経営学の基本的事項を、極力臨場感をもって修得することができるよう、テキスト以外の教材、資料からできる限り頻繁に今日的话题を引用する。

履修上の注意

遅刻はやむを得ない理由がある場合には配慮する。

予習・復習

講義後、テーマをもとにテキストの担当箇所について議論するにあたり、それをリードする役割を順次履修者に求める。履修者は積極的に演習に参加することが求められるので、議論のリーダーでない場合も事前にテキストの該当箇所を読んで参加することが必要となる。

評価方法

担当するテーマに関する発表内容、準備状況、議論への参画度等、演習に対する取り組み度合いを 70%、期末試験を 30%の割合で評価する。期末試験は学期中に取り上げたテーマに関して記述式で解答を求める。出題の意図を理解し、演習で学んだ内容を踏まえて論理的に解答しているかどうか重点を置いて評価する。

テキスト

教科書は使用せず、提供する資料をテキストとする。参考文献は各講義で明示する。

授業概要

経済、経営とは何かについて学ぶ最初の入り口となることを目指しています。そのための1つの手立てとして、日本の経済と企業について学習し理解することが有益です。第1に、日本の経済を構成する幾つかの主要な産業の実態や特徴、第2に、日本企業の海外進出、これらについて知ることです。特に、後者について学ぶ理由は、日本の多くの大企業の活動が、今日、顕著な国際化（グローバル化とも言います）を遂げているからです。

この演習では、受講生の皆さんが、我が国の主要な産業や企業の現状、中国、アメリカなどでの日本企業の活動の実態などを知ること、現代経済と企業経営についての基礎的な理解が得られるように指導します

授業計画

第1回	演習の進め方
第2回	大学で学ぶということ
第3回	経済学と経営学
第4回	日本経済の現状を知る（1）－自動車産業
第5回	日本経済の現状を知る（2）－電気機械産業
第6回	日本経済の現状を知る（3）－鉄鋼業
第7回	日本経済の現状を知る（4）－繊維・アパレル産業
第8回	日本経済の現状を知る（5）－小売業・コンビニエンスストア
第9回	日本経済の現状を知る（6）－化粧品産業
第10回	日本企業の国際化を知る（1）－企業の海外進出とは何か
第11回	日本企業の国際化を知る（2）－台湾・韓国・東南アジアへの進出
第12回	日本企業の国際化を知る（3）－アメリカへの進出
第13回	日本企業の国際化を知る（4）－西ヨーロッパへの進出
第14回	日本企業の国際化を知る（5）－中国への進出
第15回	日本経済と日本企業の現段階
第16回	試験

到達目標

まず第1に、資料を読み込み、これに基づいて発表し、討論できるようになることです。第2に、日本経済と日本企業についての理解を深めることです。そして、第3に、企業の海外進出、外国での活動についての現状を知ることです。

履修上の注意

- (1) 病気などの場合を除いて、毎回欠かさず出席してください。欠席の場合は、メールで事前に連絡してください（アドレスはのちに伝えます）。遅刻の場合は理由を説明してください。
- (2) 演習のメンバーの意見を理解し、それに対して自分の考えを述べられるように心掛けてください。

予習・復習

事前に配布する資料をよく読んで予習してきてください。演習の終了後は、何を学んだか、資料などを読み直して復習してください。

評価方法

テキストの報告と討論への参加で60%、試験40%で評定します。

テキスト

教科書の使用は予定していません。学習・討論資料を予め配布します。